

住まいじ新聞

大月人物伝 ノモンハン空中戦 空の魔王 片翼の生還 伊奈 明

国の後ろ盾となつて、た大日本帝国陸軍とソビエト労農赤軍の主力の衝突が勝敗の帰趨を決した。当時の大日本帝国とソビエト連邦の公式見解は、国境紛争に過ぎないものであつたが、モンゴル国のみは、戦争と称している。日本と満州国は「ノモンハン事件」、ソ連は「ハルハ事件」と称してゐる。

太平洋戦争勃発二年
前の一九三九年五月十
一日、陸（戦車）、空
（戦闘機）による近代
戦が闘われたのは、満
蒙国境のノモンハン事
件である。

三万から九万、装甲車
約百輛、ソ連五万七千
装甲車約一〇〇〇輛、
損害は日本軍戦死八四
四〇、戦傷八八六四、
約一八〇機。

たのか、明は、毎朝、新聞配達をしながら小中学校に通っていた。成績は抜群で小学校の時、先生に奨められ県立都留中学を受験、合格した。

国ハルピンの飛行第一連隊に入隊した。

連隊では、一年間飛行機のエンジンの分解組み立てなどを習得、昭和十一年、熊谷陸軍飛行学校に入校、基本

中隊、満州国軍騎兵を送り出した。この頃、上空では日本軍とソ連軍の空中戦が頻発していた。

■伊奈機の奮戦

東の空がかすかに白

の届かぬ遠距離から射撃するのに対し、吾が方は敵の顔が見えるまで近距離で必中弾を浴びせ、縦横に飛び交い敵機は一機また一機と火炎を上げ落ちていつ

日清日露戦争以来
連戦連勝を誇っていた
帝国陸軍にとつて、大
敗北となつていたため
軍は国民に知らすこと
無く同年九月十六日、
ソ連と停戦協定を結び
収束した。

ソ連軍、戦死七九七四
戦傷一五、二五一、装
甲車両約三五〇輛、航
空機約二五〇機であつ
た。

都留中学時代の恩師
渡辺隆泰先生は、その
当時の伊奈明少年の成
績が優秀であったこと

操縦を習得する。

んで吾が航空部隊の其地も寝静まっている空如、出動命令に飛行帽に身をかためた勇士ちは、一機、また一機と舞い上ると見事な編隊を組み、一路ボイル湖の方向に飛び去つていった。

この闘いの勇士に明がいた。明は、このとき既に勳功を上げ曹長に進級して大奮戦をしている。戦史の記述によると、伊奈曹長は正面に来たE16戦闘機を目指して、猛然と



若き日の伊奈准尉

を忘れられず、末弟の利弘氏が都留高校に在学中は、「明、明」と兄の名前を繰り返し呼んで、利弘氏の名前をまともに呼んでくれなかつたという逸話もある。

明はその後、昭和十一年、十九歳の時、陸軍に志願兵として、満州

■ノモンハン戦の出動

中隊、満州國軍騎兵を送り出した。この頃、上空では日本軍とソ連軍の空中戦が頻発していた。

■伊奈機の奮戦

東の空がかすかに白んで吾が航空部隊の基地も寝静まっている空如、出動命令に飛行帽に身をかためた勇士ちは、一機、また一機と舞い上ると見事な編隊を組み、一路ボイル湖の方向に飛び去っていた。

何度叩き落とされても、新手を加えては巨撃に来るソ連外蒙機、連敗の汚名をくつがえそうとE16戦闘機を主に、SB重爆撃機を加え、その数二百機、ボイル湖の上空を圧し現れる。隊長機の指揮にしたがって戦闘隊形も鮮やかに、隼の如く敵に襲いかかる。空中戦には、編隊としての戦術から、小さくは一機対一機の戦う戦法があり、吾が空の勇士たちは狙いをつけた敵機は絶対撃墜するといふ。敵機は未だ弾丸練によって鍛えられて戦闘精神が日頃の猛訓練による。敵機は未だ弾丸練によつて鍛えられて戦闘精神が日頃の猛訓

の届かぬ遠距離から射撃するのに対し、吾が方は敵の顔が見えるまで近距離で必中弾を浴びせ、縦横に飛び交い敵機は一機また一機と火炎を上げ落ちていった。

この闘いの勇士に明がいた。明は、このとき既に勲功を上げ曹長に進級して大奮戦をしている。戦史の記述によると、伊奈曹長は正面に来たE16戦闘機を目指して、猛然と突っ込んだ。敵の機関銃弾は不気味な音で曹長の身をかすめて行くじつと落ち着いて放たず、真正面から体当たりの態勢をとる。見る見るうちにお互いの間隔がちぢまり、もはや正面衝突と思われた時敵機は逃げようと反転する。この一瞬を見逃すものかと伊奈機の銃口が火を吐いたかと思うと、敵機はガックリ頭を下げ、一筋の白煙は真紅の炎と変わり、真っ逆さまに落ちていった。

手始めの一機撃墜に幸先良しと、前方をにらんだ瞬間、いきなり翼にバララと機関銃弾が命中する物音、振り向くと敵の二機が伊奈機の後方から小癪にも食い下がって来ている。咄嗟に上げ舵を引いて反転、逆に後ろに出て狙いをつけ、機銃がうなるなか敵機は錐もみ状態で墜落、今一機は翼を返し逃げようとする。逃がしてなるものかと伊奈機は追いかけるうち、適地の上空に来ていた。

もう一息と追いすがって一撃をあびせようとした瞬間、真下の草原からパッと赤い火花、同時に激しい衝撃を受け、愛機は頭を下に不規則な円を描いて落ち始めた。高射砲弾に左翼をつらぬかれたのである。必死になつて機首を立て直そうとしたが、その努力は空しく見る見るうちに下の草原が迫ってくる。今はこれまでと自爆の決意を固め、急降下の操縦桿をにぎり

敵陣目指して突っ込んでいった。最後！と思つた瞬間、おお何という天佑か、愛機はスーと水平にかえつたのである。反射的に右舵をいっぱい引くとガツクリ傾きながらも、ゆるゆると進んでいく、

まだ、命はあったのか！』
ほっとして、運を天に任せ、機首を北に向けると、今度は、敵の襲撃、戦闘堰を切ったように湧き起ころる歓声の中に、伊奈曹長は、不撓の精神力とそ

「ばんざーい」
堰を切ったように湧き起ころる歓声の中に、伊奈曹長は、不撓の精神力とそ

いよという時は、愛機と運命を共にしようと、覚悟を決めながら、地上レスレの危険な飛行を続け、午後五時二十分、遂に今朝出発した基地にたどり着いた。

明の半生を見ると、熊谷飛行学校・明野飛行学校・ハルピン飛行隊五百名同期生中全てを一番の成績で、社会人になっても一番で通るものと、信じてきた。

かくして、伊奈曹長は、わが航空戦史上に、片翼生還の尊い一頁を残した。明は、ノモンハンの戦いで、ソ連機九機を撃墜して、陸海軍戦闘機操縦者中、空の「エース」の称号を授与された。

また勲七等青色桐葉章に輝き、功六級金鶴勲章を昭和十四年四月二十九日に授与されている。

明はこの戦い後は、北支・中支と転戦し、太刀洗陸軍飛行学校の創設に当たり、助教として就任、

熊本県隈庄飛行学校創立には、教官に就任、京城

いよという時は、愛機と運命を共にしようと、覚悟を決めながら、地上レスレの危険な飛行を続け、午後五時二十分、遂に今朝出発した基地にたどり着いた。

明の半生を見ると、熊谷飛行学校・明野飛行学校・ハルピン飛行隊五百名同期生中全てを一番の成績で、社会人になっても一番で通るものと、信じてきた。

かくして、伊奈曹長は、わが航空戦史上に、片翼生還の尊い一頁を残した。明は、平成十九年七月の市議会選挙に立候補せず、町会議員から、大月市議会議員と、四十有余年の議員歴にピリオドを打つた。正にギネスブックに載る議員生活となつた。

明は、功罪半ば明晰な頭脳、卓越した指導力は、市民会のまとめ役として市政に多大の貢献をした。

借しむらくは、市民会館汚職事件に連座、章勲亨授の栄光にも浴さず議員職を終えたことである。これも保守政治の金権体質に蝕まれた必然性の結果と言わざるを得ない。

明は、議員を辞めてか

ら、その半生の履歴、感想文をコツコツと書き遺している。それを読むと得される。

哲学、社会科学、宗教に

政治に進出した。

庄作の地盤を継ぎ、地方

明は、議員を辞めてか

ら、その半生の履歴、感

想文をコツコツと書き遺

している。それを読むと

得される。

哲学、社会科学、宗教に

政治に進出した。

庄作の地盤を継ぎ、地方

明は、議員を辞めてか

ら、その半生の